

【 関 市 】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指すまなびの姿

関市は、近年、人口の減少、特に若い世帯の減少が著しく、地域のコミュニティの維持、その担い手の不足が課題となっている。しかしながら、本市は古くから刃物の産業で栄えたものづくりのまちであり、また、清流長良川の中流域に位置し、未来に残したい小瀬鵜飼や農業、商業、林業等、伝統文化や産業も多く残る。

こうした中、関市では「関市学校教育夢プラン」を策定し、STEAM教育を指導の柱の一つとして掲げ、将来の社会の担い手の育成を目指している。1人1台端末をはじめとするICT環境の整備は、こうした目指す人間像の育成に不可欠なものであり、特に、下記の点を重点として位置付けている。

- (1) 個別最適な学び・協働的な学びの充実
- (2) 不登校・不登校傾向の児童生徒へのまなびの場の保障
- (3) 国籍や障がいの壁を取り払うインクルーシブ教育
- (4) 遠隔授業によるまなびの機会の広がり

2. 第1期GIGAスクールの総括

第1期では、児童生徒にとっても教師にとっても学習活動の中にICTが負荷なく存在し、それまでの一斉型授業の中でいかに活用するかが主な取り組みであった。教職員のICT活用への考え方にも差があり、学校間での利活用のさも顕著であった。しかし、教職員向けの研修を行う事で次第に活用率も向上し、ほぼすべての学校が授業において週3回以上の活用ができるようになってきた。

1人1台端末の活用としては、学習支援ツールを活用して、画像や動画での記録、インターネットでの調べ学習、また、学習ノートを共有することで協働的なまなびの場面も多く見られるようになってきている。

一方で、児童生徒が自らのまなびをまとめて発表したり、過去を振り返ることで考えを再構築する場面、他者と協働的に製作に取り組むなどの場面は、未だ弱さが見られた。

3. 1人1台端末の利活用の方策

- (1) 個別最適な学び・協働的な学びの充実
 - ・ デジタルドリルや学習支援ツールを活用し、児童生徒が自らの学習を認知したり、調整したりできる環境を整える
 - ・ 学習支援ツールを活用し、他者と協働してまとめたり、考えを深めたりする場を仕組む
- (2) 不登校・不登校傾向の児童生徒へのまなびの場の保障

教室からのオンラインによる授業参加や学習教材の共有、デジタルドリル等を活用して、教師や保護者からも学習状況の確認ができるようにする
- (3) 国籍や障がいの壁を取り払うインクルーシブ教育
 - ・ 翻訳アプリや生成AIを活用することで、言語の壁を越えた学習環境を整える
 - ・ 視覚的、聴覚的なハンデキャップを解消するアプリの利活用
- (4) 遠隔授業によるまなびの機会の広がり

オンライン遠隔授業の実施により、学校間の交流、校種間の交流、学校外の事業所や専門機関との授業を実施する